

中国国家図書館所蔵の 宋刊医籍孤本八種

李 志 剛

中国国家図書館（旧称北京図書館）は清末の一九一〇年に創設された京師図書館を前身とし、翌々年に正式開館。一九二八年には国立北平図書館と改称された。したがってその歴史はさほど長くはないが、蔵書の一部は南宋の皇帝書庫・輯熙殿、明の皇帝書庫・文淵閣を受け継ぎ、清朝の内閣大庫、翰林院、国子監南学の蔵書を基礎としているから、文字通りその質量は中国国家を代表するものである。むろん医学関係書にも注目すべきものが少なからずあるが、これまで日本にはその状況がほとんど知られていない。

演者らは本館所蔵の古医籍を調査した結果、日本の各図書館には所蔵されない善本の数々について知見を得た。今回はそのうち中国宋版の孤本八種について、その概略を報

告する。

一『洪氏集驗方』五卷、乾道六年（一一七〇）姑孰郡齋刊本

宋・洪遵の撰になる方書。著者自身の、もしくは伝聞による経験処方一六七首を収録する。本版は洪遵自身が姑孰（安徽省当塗）の役所で出版した初刊本で、他に伝本は皆無。每半葉九行、行十六字。目錄の第一・二・四葉は明初の補鈔、卷末に元人手写の「賢人留意濟斯民」の詩があり、紙背には淳熙七・八年の公文がある。清の季振宜旧蔵。以後、黄丕烈→汪士鐘→瞿紹基と転じて本館の蔵に帰した。

二『傷寒要旨』二卷、乾道七年（一一七一）姑孰郡齋刊本

宋・李樞の撰。卷一は「傷寒要旨」、卷二は「傷寒要旨薬方」。収録薬方一〇四方。本版は前項の『洪氏集驗方』の翌年、同じく姑孰の郡齋から刊行されたもので、版式も刻工名も同じくする。黄丕烈の旧蔵で、以後『洪氏集驗

方』と流転をともにし、本館に収蔵された。本書は今日まで一度も影印・翻印されたことがなく、その内容は世に知られていない。

三『衛生家宝産科備要』八卷、淳熙十一年（一一八四）

南康郡齋刊本

宋・朱端章の撰になる産婦人科の方書。本版は巻末に「長樂朱端章、以所藏諸家産科經驗方、編成八卷、刻版南康郡齋。淳熙甲辰歲十二月初十日」、目錄末に「翰林医学差充南康軍駐泊張永校勘」とある初版本。每半葉九行、行十五字。黄丕烈・汪士鐘・瞿紹基ら旧蔵。『十万卷樓叢書』に翻刻がある。

四『本草衍義』二十卷、淳熙十二年（一一八五）江西転

運司刻慶元元年（一一九五）修本

宋・寇宗奭が政和六年（一一一六）に編撰した本草書。宣和元年（一一一九）の初刊本は伝存しない。他に武田杏雨書屋蔵の淳熙十二年刊本、宮内庁書陵部蔵の慶元元年刊本の宋版が知られる。本版は淳熙の原刻数葉を存し、残り

は慶元の補刻。每半葉十一行、行二十一字。

五『經史証類備急本草』三十一卷、嘉定四年（一二二二）

知漣川府劉甲刊本

宋・唐慎微の撰になる本草書。原書は十一世紀末の成立。淳熙十二年江西漕司刊本→南隆再刊本→本版と重刻されたもの。每半葉十一行、行二十一字。清の楊以增旧蔵。

六『劉涓子鬼遺方』五卷、宋刊本

晋末の劉涓子の原撰、南齊の龔慶宣の編になる外科的疾患の治方書。もとは十卷本で、『外台秘要方』『医心方』などにも引用がある。本版は刊年不詳であるが、唯一最古の宋刊本。每半葉十三行、行二十三字。汪士鐘・瞿紹基等旧蔵。

七『十便良方』四十卷、宋万卷堂刊本

宋・郭担の撰になる方書。『近時十便良方』などとも称す。収録方剂二千余方。慶元二年（一一九六）に初刊されたが失伝。本版はそれに拠る成都眉山地方の書坊・万卷堂

の重刻本で、目録末に「万卷堂作十三行大字刊行庶便檢用請詳鑑」とある。現存部は卷十一〜十七、二十一〜二十三の計十卷。每半葉十三行、行二十三字。黄丕烈・瞿紹基等旧藏。

八『傷寒明理論』三卷、方論一卷、宋刊本

金・成無己の撰した『傷寒論』の解説・研究書。初刊本として小字密行の金刊本があつたらしいが現存しない。本版は刊行年代不詳であるが、宋刊本として唯一最古のものである。每半葉十行、行二十字。清の李之鵬の旧蔵書で、従来本版に拠る影印もしくは翻刻本はない。

(中国国家図書館／北里研究所附属東洋医学

総合研究所・医史文献研究室)

十九世紀ヨーロッパの医育の変遷

石田¹⁾ 純郎、H・ボイケルス

十九世紀のヨーロッパにおける医学教育方法の歴史的変遷については、一々詳細な記述は成書に見られるものの、そのアウトラインを整理して、明快に示したものは演者の知る限り日本には見られない。そのためたとえば、外科産科医の地位の向上、学位の一本化、大学の公用語の変化(ラテン語から母国語へ)、医育機関の一本化などが、どのような歴史的節目を境になされたのか、よく知られていない。

演者はここに、ヨーロッパにおけるその変遷についての新しい時代区分を提唱したい。イギリスは変遷が独特であるので除外し、大陸の主としてオランダ・フランス・ドイツ・オーストリアについて論じる。

十九世紀の医育の歴史を、三期に分ける。第一期は一七八九年(フランス革命)および一八一四年(ウィーン会議)